

議 事 録

会 議 名 令和8年度 第2回 村上市総合計画審議会

開催日時 令和8年8月20日（木）

会 場 村上市役所 5階 第5会議室

出席者 【委員】

青山委員、飯塚委員、佐々木委員、穴戸委員、仲委員、
長島委員、畠山委員、八藤後委員

【村上市】

山田課長、田村室長、横山係長、増子係長、相馬主査、井上主査

発言者	議事内容
事務局	1 開会〔進行〕
事務局	2 挨拶〔進行〕
会長	〔あいさつ〕
基本計画(案)	
会長	3 議事 (1) 基本計画(案)について〔進行〕
事務局	〔資料説明〕
会長	確認だが、本日は32の政策分野すべてについて個別に審議するのではなく、基本計画全体の構成やレイアウト、見せ方などについて、委員から意見を伺うという趣旨でよいか。
事務局	32の政策分野については、7つの専門部会に分けてこれまで議論を重ねてきたため、本日の審議会では、個々の分野の細かな内容というよりも、基本計画全体を通した構成や内容についてご意見をいただきたい。

発言者	議事内容
会長	個別の内容については各専門部会で議論してきたということで、本審議会では基本計画全体を通して意見を伺いたいという趣旨であることは理解した。
委員	非常に分かりやすくまとめられており、まず感謝申し上げたい。その上で1点伺いたい。資料1の表面右上に「関連する総合戦略」として4つのイラストが掲載されているが、これは次に審議する資料3の総合戦略と関連しているということか。
事務局	おっしゃるとおり、次に審議いただく総合戦略との関連を示すマークである。総合戦略についてはこの後説明するが、具体的な施策を個別に列挙するのではなく、基本的な考え方を示し、具体的な施策については基本計画を参照していただく構成としたいと考えている。そのため、基本計画の各政策分野が総合戦略のどの目標に関連するのかを、このマークで示す予定である。
委員	まだ説明前なので先走った質問になるが、このイラストに付されている番号が、資料3のどの部分に対応しているのか確認したい。
事務局	これは、関連する総合戦略の目標を示すものである。資料3「総合戦略」の第2節「戦略目標」では、3つの戦略目標を設定する案としており、その目標をマークで示している。なお、資料1ではマークが4つ掲載されているが、これは誤りである。訂正してお詫びしたい。
委員	おおよそのイメージは理解できた。ありがとうございます。
委員	裏面の「みんなでできること」は、市民が計画に関わるという意味で非常に重要な項目だと感じる。そのため、「みんなでできること」は最後に配置した方がよいのではないか。「将来像・市民の実感」で目指す姿を示し、「農業の目標」を示した上で、最後に「その実現に向けて、みんなで何ができるか」という流れにすることで、市民自身が「自分たちは何をすればよいのか」を考え、具体的な行動につながりやすくなると思う。 また、「みんなでできること」に記載されている内容はそのとおりだと思うが、可能であれば具体的な数値を示してはどうか。例えば、地元農産物の学校給食での使用率について、現状が4割であれば7割を目指すといった数値を示すことで、市民にとって目指すところが分かりやすくなり、具体的な行動につながるのではないか。

発言者	議事内容
会長	「みんなでできること」を「将来像・市民の実感」の後に配置するという意見については、私も同様に考える。「将来像・市民の実感」は、ある意味ではこの計画が目指す「目標」に当たるものと考えられる。 その観点から見ると、農業に限らず、「市民の実感」の表現に「〇〇になった」といった実現後の状態を表すものと、「〇〇になる」「〇〇と感じる」といった将来の姿を表すものが混在している。日本語では「未来形」という言い方は適切ではないかもしれないが、表現の方向性が統一されていないように感じる。 この「市民の実感」が、総合計画を実現したときに市民がどのような姿や変化を実感できるのかを示すものであるならば、表現を改めて整理し、将来の姿を表す形に統一した方がよいのではないか。例えば、「農業を続けやすくなった」ではなく、「農業を続けやすくなる」とするなど、表現を統一した方が分かりやすいと思う。
委員	資料2は文字量が多いが、資料1ではイラストや図、色などが効果的に使われており、市民の皆さんにとって見やすく、非常に分かりやすいレイアウトになっていると思う。また、「みんなでできること」という項目を設けたことで、市民の皆さんが主体的に計画に関わっていくという姿勢が伝わり、とてもよいと感じる。本日も多くの方が傍聴されており、皆さんと一緒に考え、取り組んでいく計画であることが感じられる。 その上で、2点伺いたい。まず、裏面の「将来像・市民の実感」について、この「将来像」はいつの時点を想定しているのか。計画期間の最終年度が令和13年度であることから、令和13年度に目指す姿を示しているという理解でよいのか。
事務局	そのとおりである。本計画は5年間の計画であるため、計画期間の最終年度である令和13年度に目指す姿として設定している。
委員	そうであれば、「将来像」が計画期間の最終年度である令和13年度に目指す姿であることを、明確に示した方がよいと思う。現状の表現では、10年後、20年後など、いつの時点を想定した将来像なのか、読む人によって受け止め方が異なる可能性がある。 もう1点、「農業の目標」や「将来像・市民の実感」、チャレンジなどに描かれ

発言者	議事内容
	ている人物のイラストについて、男性は青、女性は赤というように、色によって性別を固定的に区別する表現になっているように見える。こうした表現は、見る人の意識にも影響を与える可能性があるため、性別と色を固定的に結び付けることのないよう、配色について配慮していただきたい。
会長	特に、今回の計画はビジュアルで分かりやすく伝えることを重視しているからこそ、こうした表現には、より一層留意する必要があると思う。
委員	今回の総合計画での対応は難しいかもしれないが、市民にとって計画をより身近で説得力のあるものとするためには、具体的なモデルケースを紹介するような工夫があってもよいと思う。例えば、村上市で新たに農業を始めた方の取組や、そこで感じている充実感、村上で暮らしぶりなどを、新聞のコラムのような形で紹介し、将来像につながる具体的な姿を示すことで、計画の説得力も高まるのではないかな。 計画の内容だけを示すのではなく、実際に地域で活動している市民の取組や暮らしを具体的に伝えることも重要だと思う。今回は難しいとしても、今後の総合計画では、こうした市民の姿や声を計画の中で紹介することも検討していただきたい。
会長	具体的な事例を取り入れることで、より身近で説得力のある計画になるのではないかなというご意見として承った。ありがとうございます。
委員	「目標」と「将来像」が同じような位置付けではないかという意見については、私も理解できる部分がある。一方で、私の感覚としては、まず達成すべき「目標」があり、その達成に向けて「チャレンジ」に取り組み、その結果として「将来像」につながっていくという流れの方が、分かりやすく自然に理解できるのではないかと感じた。
会長	つまり、まず目指すべき「目標」があり、その実現に向けて取り組むことが「チャレンジ」であり、その結果として、市民の皆さんの暮らしがより良くなるというストーリーということか。
委員	その方が、まず達成すべき「目標」があり、その目標に向かって取り組み、その結果として実現する「将来像」があるという流れになり、視覚的にもずっと理解しやすいのではないかと感じた。

発言者	議事内容
会長	ただいま委員からもご意見があったので、どちらの構成がより市民にとって分かりやすく、訴えやすいものとなるかという観点から、事務局で検討していただきたい。
委員	資料1について、内容そのものというよりも、このような形式で資料を作成するに当たり、どのような方に読んでいただくことを想定しているのか伺いたい。「レベル感」という表現が適切か分からないが、どの程度の年齢層や対象を意識して作成しているのか、参考までにお聞きしたい。
事務局	若い世代、特に学生にも読んでもらいたいということを意識している。本市では、出前講座などで総合計画を題材として、小学校の総合学習等で取り上げる機会もある。そのため、「あなたができること・取り組みたいこと」のようなスペースを設けることで、子どもたちにも総合計画やまちづくりに興味を持ってもらえるのではないかと考え、このような構成としている。
委員	資料を拝見し、若い世代を意識して作成されているのではないかと思います、確認させていただいた。このくらい分かりやすい内容や構成であれば、中学校や高校の探究学習や地域学習などでも活用できると思う。総合計画は、一般的には中学生や高校生にとって難しいイメージがあるが、教材や副教材としても活用できるような分かりやすさを意識することで、地元の中学生や高校生にも計画を見てもらい、地域について考えてもらうきっかけにもなるため、非常によいと思う。
会長	それでは、委員の皆様から多くのご意見をいただいたので、それらを踏まえて構成を改めて見直し、より市民の皆様に分かりやすく、訴えやすいレイアウトとなるよう、事務局で検討していただきたい。
総合戦略(案)	
会長	(2) 総合戦略(案)について〔進行〕
事務局	〔資料説明〕
会長	委員の皆様からご意見をいただく前に、事実関係について確認したい。「総合戦略」あるいは「地方版総合戦略」という名称は、現在も国において使用されているのか。これまでは「地方創生」という言葉が多く使われていたが、現在

発言者	議事内容
	は「地域未来戦略」という名称が使われており、国の方針や用語の使い方が変わったのではないかという印象を受けている。この点について、閣議決定された文書等を踏まえ、事務局ではどのように整理しているのか伺いたい。
事務局	おっしゃるとおり、国の「総合戦略」については、「地域未来戦略」に上書きされたものと認識している。一方、地方版の戦略については、「地方版未来戦略」ではなく、引き続き「地方版総合戦略」という名称が使用されていると認識している。現在、地方版総合戦略を策定するに当たっては、国から、昨年12月に示された手引きを参考に策定するよう通知されているが、その手引きについても「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き」という名称となっている。
会長	国としても、地方自治体に混乱が生じないように、従来の名称を継続して使用しているのかもしれない。
委員	先ほどの質問に関連して確認したい。資料1の右上にある「関連する総合戦略」のイラストについて、今ほど説明いただいた資料3の3ページ「総合戦略と基本計画政策分野相関図」と対応しているものと理解したが、その認識でよいか。
事務局	そのとおりである。資料1の「関連する総合戦略」は、資料3の「総合戦略と基本計画政策分野相関図」と対応している。
会長	今の意見も踏まえると、基本計画の32の政策分野がいわゆる縦軸に当たり、それに対する横串として、総合戦略に掲げる3つの戦略目標が位置付けられているということになる。そして、各政策分野がどの戦略目標と関連しているのかを、「関連する総合戦略」のマークで示すという理解でよいか。
事務局	そのとおりである。
委員	第1節「策定の趣旨」の2つ目の段落に、「今後も人口減少が続くことが見込まれる中、人口の増加のみを目標とするのではなく、人口減少を前提としながら地域産業を成長させる」といった記載がある。このような考え方についても、国が示した方針や策定の考え方を踏まえて、このような表現としているということか。

発言者	議事内容
事務局	この文章自体は、国から示された雛形等を参考に作成したものではない。ただし、「地域未来戦略」は、人口減少に対応していくための地方の戦略であると認識していることから、その考え方を踏まえて、このような文言を記載している。
委員	この文言を読んで感じたのだが、「人口の増加のみを目標とするのではなく、人口減少を前提としながら地域産業を成長させていく」としている。目標を掲げること自体はよいと思うが、実際にどのような取組によって地域産業の成長につなげていくのか、市として説得力のある具体的なモデルやイメージを想定しているのか伺いたい。
事務局	その点については、今回の案を作成する段階では十分な検討ができていなかったため、一旦事務局に持ち帰り、改めて検討させていただきたい。
委員	日本全体の問題として人口減少が進んでおり、地域ではさらに深刻な状況にある。人口減少は抗い難い大きな流れになっていると思うが、国や行政がそれに対して諦めてしまえば、誰が人口減少の解決に向けて取り組んでいくのかということになる。そのため、行政自らが「人口減少を前提に」と掲げてしまってもよいのか、市民の目線から見ると疑問を感じる。
委員	今の発言についてだが、様々な取組を行ったとしても、今後も人口減少が続くことが見込まれているというデータも示されており、人口減少そのものは避けられない部分があるのではないかと思う。そのような状況の中で、村上市の活力をどのように維持し、これからの地域をどうつくっていくのかを考えていくことが、現実的ではないかと考える。
委員	私も、その考え方は現実的だと思う。ただし、行政が戦略や計画を策定するのであれば、人口減少が進む中でも地域の活力や産業を維持・成長させていくための具体的なモデルがなければ、空論になってしまうのではないか。例えば、国内で人口減少が進む中でも産業振興に成功している地域や、海外で同程度の人口規模でも経済発展を遂げている地域などの事例を参考にしながら、本市としてどのような取組を進めていくのか、具体的なモデルを示すことが必要だと思う。それが行政の責任として求められるのではないか。

発言者	議事内容
会長	「人口減少を前提としながら」という表現は、確かに人口減少を受け入れてしまったような印象を与える部分があると思う。例えば、「人口減少の局面にあっても、地域を維持できる村上市」といった表現にすることで、人口減少を単に受け入れるのではなく、その中でも地域を維持していくという姿勢が伝わるのではないかな。もう少し前向きに、人口減少の中でも地域を持続させていくという意思が感じられる表現にした方がよいと思う。 また、他の自治体や海外において、人口減少の局面でも地域や産業を維持している事例について、計画書に掲載できるかどうかは紙面の制約もあるため別としても、農業、商工業、福祉など各分野の参考となる事例を、市として把握しておく必要があると思う。
委員	先ほど、計画に具体的なモデルケースを示すことで説得力が高まるのではないかと申し上げたが、行政としても、「本市はこういう姿を目指している」ということを市民に分かりやすく示せるような具体的なモデルを持つておく必要があると思う。今後、計画について問われた際に、「このような事例があり、本市にもこうした可能性がある」と具体的に示せることが重要である。厳しい言い方になるが、そうした具体的なモデルや可能性を持った上で、戦略や計画を策定する必要があると考えている。
委員	今の件に関連して、農業については、フランスやイギリスでは都市部から農村部への人口移動が見られる事例もある。そのような事例を示すことで、「農村だから人口減少は仕方がない」ということではなく、逆の動きもあり得ることが伝わるため、こうした事例を示すことは重要だと思う。 また、別の観点になるが、国では「地方創生」から「地域未来戦略」へと考え方が移っている一方、地方については、引き続き地方版総合戦略を策定することとされていると認識している。「地域未来戦略」では17の重点分野が示され、国の支援制度とも関連していることから、本市の総合戦略にも、こうした国の方向性のある程度取り入れる必要があるのではないかな。 例えば、農林水産分野では植物工場や陸上養殖などが位置付けられており、本市においても鮭の陸上養殖に関する動きがある。今後、国の支援制度を有効に活用していく観点からも、関連する取組については計画の中で一定程度強調するなど、記載の仕方に強弱をつけた方がよいのではないかな。

発言者	議事内容
会長	国の「地域未来戦略」で示されている17の重点分野と、本市の総合戦略との関連について、どのように考えているのか伺いたい。
事務局	17の戦略分野は、国の成長戦略に位置付けられた重点産業であり、これらを対象として国が大規模な投資を促進するものが「戦略産業クラスター計画」である。このほか、都道府県が主体となる「地域産業クラスター」があり、さらに、市町村や都道府県が主体となる「地場産業成長プラン」が位置付けられている。本市に直接関係するものとしては、この「地場産業成長プラン」であると認識している。 「地場産業成長プラン」については、現時点では本市として策定を検討している段階である。国の具体的な支援制度や交付金等について、まだ明らかになっていない部分もあることから、今後、国の制度設計や支援内容を十分に確認した上で、本市の産業振興に活用できるかどうか、プランの策定も含めて検討していきたいと考えている。
会長	元国の職員として申し上げるのも何だが、国の政策に合わせて村上市の施策を考えるのではなく、まず村上市として必要な施策を考え、その実現に活用できる国の制度を選択していくという発想の方がよいと思う。国の政策に振り回されることのないよう、市としての考え方をしっかり持つことが重要である。
委員	細かな点になるが、右側の「計画期間」の3段落目に「国の地域未来戦略は2030年度まで」とある。上では本計画の計画期間を「令和9年度から令和13年度まで」と和暦で表記しているため、「2030年度（令和12年度）」と併記した方が、読んでいて分かりやすいと思う。 もう1点、その下の「戦略を推進する上での基本的な考え方」では、「地域に仕事と所得があり、必要な生活サービスを受けることができ、一人ひとりが希望を持って暮らし続けられる地域社会をつくることを目指します」としている。この後の内容を読むと、「つながり」を非常に大切にしていることが伝わってくるため、ここにも人と人とのつながりや支え合いといった要素を加えることで、目指す地域社会の姿がより伝わりやすくなるのではないか。
会長	人と人とのつながりという考え方を、ここにも盛り込んでどうかというご意見である。事務局においては、このご意見を踏まえて検討していただきたい。

発言者	議事内容
委員	私も同感である。戦略全体を通して、「本市はこういう考え方で取り組んでいく」という一貫した考え方が、キーワードとして随所に表れることで、戦略としての説得力も高まると思う。「つながり」や「絆」といった言葉は、本市の戦略を考える上で大切にしたいキーワードだと考える。
基本構想(案) 将来像	
会長	(3) 基本構想(案)について〔進行〕
事務局	〔資料説明〕
会長	基本構想については、大きく「将来像」「基本理念」「基本目標」「土地利用」「重点視点」の5つに分けられると思うので、それぞれ区切りながら委員の皆様からご意見をいただきたい。まず、1ページ目の「将来像」についてご意見を伺いたい。 ここからは個人的な意見になるが、今回の将来像では「つながり」と「挑戦」がキーワードとなっている。「つながり」については、人と人、地域と地域、世代や分野を超えて支え合い、連携するという意味が示されているが、そこに「過去とのつながり」という視点もあってよいのではないかと。 村上是非常に歴史のある地域であり、私のような市外出身者から見ても、そこに大きな魅力を感じる。中心市街地だけでなく、郊外のそれぞれの地域にも長い歴史がある。現在の村上があるのは、そうした地域の歴史や営みが脈々と受け継がれてきた結果であり、私たちはその大きな流れの中で今を生きている。そうした意味で、人や地域などの横の「つながり」だけでなく、過去から現在、そして未来へと続く「つながり」という視点もあってよいのではないかと。
委員	今の「過去とのつながり」という点については、私も同感である。私は新潟市民だが、様々な機会に村上を訪れており、非常に多くの魅力を持った地域だと感じている。一方で、村上市民自身が、その魅力に十分気付いていない部分もあるのではないかと。温泉や海、歴史、文化など、村上には豊かな地域資源がある。こうした現在の村上が、これまでの長い歴史や文化の積み重ねの上に成り立っていることを認識し、自分たちの地域の価値をしっかりと認め、大切にするという視点があってもよいのではないかと常々感じている。

発言者	議事内容
	もう1点、「つながり」という視点については、市内だけのつながりにとどめるべきではないと思う。以前の会議でも申し上げたが、例えば北九州地域では、小規模な自治体が単独で対応することが難しいごみ処理などの課題について、北九州市など周辺自治体と連携し、地域全体で協力して取り組む動きがある。人口減少が進む中では、村上市だけですべてを完結させるのではなく、周辺自治体をはじめ、市外の様々な主体と情報を共有し、連携して課題に取り組んでいくことが重要である。「つながり」には、こうした市外・地域外とのつながりという視点も盛り込んでいくとよいと思う。
会長	市の中だけで完結して孤立するのではなく、市外の自治体や様々な主体とも情報や問題意識を共有し、つながっていくということですね。
委員	そのとおりである。少し余談になるが、以前、作家の村上春樹さんが村上市のトライアスロンに参加されたことについて、東京在住の友人と話をした際、その友人から「村上はよいところだね」という話があった。有名な作家が参加したことで、「村上」という地名も広く知られる機会になったのではないかとと思う。 このように、市外の人から見ても村上には魅力を感じさせるものが数多くある。一方で、村上に住んでいる人は、身近にあるがゆえに、自分たちの地域が持つ美しさや豊かさに十分気付いていない部分もあるのではないかと感じている。
委員	この文章案の冒頭にある将来像について、「つながりと挑戦で、未来をつくるまち」という言葉は非常に心に響くものであり、よいキャッチフレーズだと思う。市民の皆さんに対するメッセージだけでなく、市外や同じような課題を抱える地域に対しても、強いメッセージとして伝わるのではないかと感じている。 その上で、「つながり」という言葉については、例えば、過去から現在、未来へと続く「時間軸でのつながり」、人と人との「人のつながり」、市内外を含めた「地域のつながり」など、いくつかの視点に分けて、その意味をもう少し広げて記載してもよいのではないかと感じる。そうすることで、将来像に込めた「つながり」の意味が、より具体的に伝わると思う。 また、近年、地震や豪雨など様々な災害が発生している中で、災害時に最も懸

発言者	議事内容
	念されることの一つが地域の孤立である。情報が入らず、周囲とのつながりが失われることは大きな問題であり、市域が広く、多様な地域を有する村上市にとって、「つながり」は、市民の暮らしや安全を守る上でも非常に重要な意味を持つ言葉だと感じた。 そうした意味でも、「つながり」という言葉を様々な角度からもう少し掘り下げ、その思いを具体的に示すことで、市民だけでなく、市外の地域や県などに対しても、本市が目指すまちづくりの姿をより強く発信できるのではないかと思う。
会長	まさに、関係人口にもつながる考え方だと思う。「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」と将来像として大きく掲げるのであれば、「村上に来れば人や地域とつながることができる」ということを、本市の魅力の一つとして打ち出していくことにもなるのではないか。
委員	そもそもここに掲載することが適切かという点も含めて伺いたい。左側の「進化のストーリー」には「これまで大切にしてきた『あふれる笑顔』」という表現があり、右側にも「あふれる笑顔のまち」という文言がある。この「あふれる笑顔」とは、具体的にどのような姿を表しているのか。「笑顔」と言っても、人によってイメージするものが異なり、具体的な姿が捉えにくいように感じる。進化のストーリーの中に「あふれる笑顔」という言葉を位置付ける必要があるのかということも含めて、どのような考え方でこの表現を使用しているのか伺いたい。
会長	「笑顔」という言葉を、どのような考え方で進化のストーリーに位置付けたのかというご質問ですね。
事務局	「あふれる笑顔のまち村上」は、現行の第3次総合計画で掲げている将来像である。第4次総合計画では、これまでの計画をすべて刷新し、上書きするのではなく、これまで大切にしてきた考え方を引き継ぎながら、さらに高めていくという考え方を大切にしている。そのため、「進化のストーリー」の中に、第2次・第3次総合計画で大切にしてきた「笑顔」という言葉をあえて残している。これまでの計画をなかったものにするのではなく、そこで培ってきた考え方を礎として次の段階へ進んでいくというメッセージを込めて、「あふれる笑顔」という表現を使用している。

発言者	議事内容
委員	そうすると、「あふれる笑顔」というこれまで大切にしてきた考え方が、その後の「礎に」という表現につながっているということか。計画全体で掲げてきた「あふれる笑顔」を具体的な姿として説明することは難しいと思うが、今説明いただいたように、「これまでの計画で大切にしてきた考え方を引き継ぐ」といった説明を加えると、より分かりやすくなるのではないか。右側には「第3次計画」と記載されているので、その辺りにも説明を加えることで、これまでの計画を礎として第4次計画へつなげていくというイメージが、読んだ人にも伝わりやすくなると思う。
会長	実は私も同じように感じていた。「笑顔」と、今回新たに掲げる「つながり・挑戦」が、どのような考え方や流れで結び付いているのかが、現状の記載では分かりにくい。これまでの計画を単に上書きするものではないということであれば、「笑顔」から「つながり・挑戦」へ、どのように発展・進化してきたのかというロジックが必要だと思う。そのつながりが明確になれば、単なる上書きではなく、これまでの考え方を継承し、発展させたものであることが伝わる。計画書にどこまで記載するかは別としても、市として、そのロジックはしっかり整理しておいた方がよいと思う。
基本構想(案) 基本理念	
会長	続いて、「2. 基本理念」についてご意見、ご質問をいただきたい。「ともに創り、育み、広げていく未来へ」として、「創る」「育む」「広げる」の3つの要素を掲げているが、この基本理念について、委員の皆様からご意見を伺いたい。
会長	現行の第3次総合計画においても、「創る」「育む」「広げる」の3つを基本理念として掲げている。今回、「進化」あるいは「深化」させるということであれば、枠組み自体は同じ中で、第3次総合計画から具体的に何が変わったのかが分かるようにした方がよいのではないかな。 第3次総合計画の基本理念がよいものであるため、第4次総合計画でもそのまま引き継ぐということであれば、それでもよいと思う。一方で、第3次と第4次では考え方がこのように変わった、あるいは深まったということを示すのであれば、「つながりや共創、新たな価値を生み出す視点を加え、これからの時代に合わせてその意味を深化させます」という説明だけでは、やや抽象的であり、具体的にどこが変わったのかが捉えにくいと感じた。紙面や文字数の制約もあ

発言者	議事内容
	と思うが、第3次からどのように深化したのかが伝わるよう、表現を工夫していただきたい。
基本構想(案) 基本目標	
会長	それでは、「2. 基本理念」については以上とする。続いて、右側の「3. 基本目標」について、委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたい。
会長	基本目標については5ページ近くまで内容が続いているが、ここに示されている政策分野が、基本計画における32の政策分野ということか。
事務局	そのとおりである。基本計画に掲げる32の政策分野を、5つの基本目標に分けて位置付けており、この5つの基本目標がまちづくりを進める上での5本の柱となる。
委員	細かな点になるが、基本目標4「人が輝く郷育のまち」の「郷育」という言葉は、村上市民の皆さんには一般的に読めるものなのか。
会長	「郷育」は「きょういく」と読んでしまう可能性があるため、ルビを振るか、あるいは別の言葉に置き換えるなど、読み方が分かるような工夫が必要ではないか。
委員	特に、中学校などの総合学習での活用も想定するのであれば、子どもたちにも読み方が分かるよう、「郷育」にはルビを振るなどの工夫をした方がよいと思う。
会長	市民の皆様にも馴染み、広く使っていただける計画とするのであれば、市民にとって分かりやすく、使いやすい言葉にすることが大切だと思う。一方で、「郷育」という言葉に市としての思いや意図があるのであれば、言葉自体は残し、ルビを振るなどして分かりやすくする方法でもよいと思う。
事務局	「郷育」という言葉は、村上市の教育基本計画でも使用しているものである。今回の総合計画において、ルビを振って使用するか、あるいは別の表現に変更するかについては、一旦事務局に持ち帰り、検討させていただきたい。

発言者	議事内容
委員	基本目標5について、「共生」から「行政運営」まで5つの政策分野が掲げられている。そのうち「広報広聴」では、「情報のアクセシビリティが確保され、行政と市民が双方向の対話を通じて共に歩むまちを目指します」としているが、この表現では、市内に向けた情報発信が中心となっているように感じる。先ほどの「つながり」の議論にもあったように、広報には、村上市の魅力を市外にも広く発信し、地域外とのつながりを広げていく役割もあると思う。そうした視点も含めて、文章を検討していただきたい。
会長	PRIは「パブリック・リレーションズ」であり、市民だけでなく、市外の方々との関係づくりという視点も重要である。ご指摘いただいた点も踏まえて検討したい。
基本構想(案) 土地利用構想	
会長	続いて、「4. 土地利用構想」について、委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたい。
委員	「集約」と「生活維持」は、一見すると相反する考え方のようにも思えるが、その両方を実現していくという市の意思が表れており、よいと思う。 一方、「まちの未来の地勢図」では、中心拠点、地域拠点、北部生活圏が示され、それらをつなぐ構成となっているが、例えば三面川や高根川の上流部などにも集落があると思う。そうした地域に暮らす方々が、この構想から取り残されているように受け取られることはないのか。図を見ると、3つの拠点や生活圏をつなぐことが中心となっているようにも見えるが、それ以外の地域の暮らしをどのように位置付けているのか伺いたい。
会長	かつて「国土の均衡ある発展」という考え方が重視された時期もあったが、村上市においても、地域の均衡ある発展という視点は重要だと思う。その観点から見ると、この地勢図に示されている矢印だけで、市内各地域のつながりや暮らしを支えていく考え方を十分に表現できているのか。地域間のバランスをどのように考えているのか、市としての考えを伺いたい。
事務局	今回は、山北地域については中心部からの距離があることから、「北部生活圏」として位置付けている。一方、神林地域や朝日地域の奥部などについて、すべ

発言者	議事内容
	ての機能を中心部へ集約するという考え方を示したものではない。人口減少が進む中では、広域的な行政サービスなど一定の機能については中心部への集約が必要になるという考え方を示している。 ただし、各地域での暮らしに支障が生じないように、交通ネットワークなどを維持し、必要なサービスへアクセスできる環境を確保していく考えであり、地勢図ではそのつながりを灰色の矢印で表現している。
委員	そうした考え方であれば、5ページの土地利用構想の文章にも、中心部への集約だけではなく、各地域の暮らしを維持し、必要なサービスへのアクセスを確保していくという考え方が伝わるよう、もう少し具体的な文言を加えるとよいと思う。
会長	そういう意味では、この灰色の矢印は非常に重要だと思う。ピンク色や紫色の矢印は、産業や交流など今後積極的に進めていく方向性を示すものとして目立っているが、一方で、市民の日常生活を支える上では、各地域を結ぶ灰色の矢印も非常に重要である。その重要性がもう少し伝わるよう、図の中で目立たせるなど、表現を工夫してはどうか。
委員	地図では、グレーの線を「市内公共交通軸」としている一方、右側の説明では「生活ネットワーク」となっている。両者が同じものを示しているのであれば、表現を統一した方がよいと思う。
事務局	「生活ネットワーク」は、地図上の「市内公共交通軸」と同じものを示しており、正しくは「市内公共交通軸」である。
委員	そうすると、上の「高速移動軸」についても、地図上の「広域道路軸」と同じものを示しているということか。
事務局	そのとおりである。表記が統一されておらず、申し訳ない。表現を整理したい。
委員	今の地勢図について確認したい。「市内公共交通軸」を示す灰色の矢印は途中までとなっているが、「まちの未来の地勢図」ということで、将来的な公共交通の範囲をここまでと想定しているという意味なのか。

発言者	議事内容
事務局	この矢印は、奥地に点在する集落の位置に向けて引いているものである。例えば山北地域では、居住地域として示している範囲の最も奥にある集落までを結んでおり、それより奥は基本的に山林地帯となっている。
委員	青色の①付近にある矢印についても、高根川沿いの集落までを示しているということか。
事務局	そのとおりである。この矢印の先は、高根川沿いで最も奥に位置する高根集落を示している。
委員	その下の矢印についても同じ考え方ということか。そうすると、村上市の東側は、その先については山間地であり、集落はないということか。
会長	この地図で言えば、例えば高根川沿いの灰色の矢印が止まっている位置が、集落のある範囲の終点ということか。その先には集落はないという理解でよいか。
事務局	そのとおりである。各方面について、最も奥に位置する集落を終点として結ぶような形で図示している。
会長	三面川沿いについても、同様に矢印の先が最も奥の集落ということですね。分かりました。
副会長	土地利用構想の2段落目に「集約」と「生活維持」とあるが、この両立は当然必要なことだと思う。一方で、現在の表現では、機能を中心部に集約することは分かるものの、「生活維持」として何を維持していくのかが分かりにくく、地勢図を見ると道路や交通ネットワークだけを維持するようにも受け取れる。 個別の計画や施策まで見れば、周辺地域を決して見捨てるものではないことは分かると思うが、この土地利用構想だけを見た市民からすると、「また郡部が取り残されるのではないか」と感じる可能性がある。中心部だけでなく、市内の各地域の暮らしをしっかりと維持していくという考え方が伝わるよう、「生活維持」をどのように表現するか工夫し、誤解を招かないようにした方がよいと思う。

発言者	議事内容
会長	「生活維持」をどのように示すかという点について、例えば10年、20年前の総合計画では、光通信などの情報通信基盤を整備することで、物理的な道路の先に点在する集落であっても、生活に必要なサービスを受けられるという考え方が多く見られた。今回の構想は「土地利用」という考え方であるため、どうしても道路や交通ネットワークを中心とした表現になっているように感じる。 しかし、現在であれば、光ファイバーや5Gなどのデジタル基盤を活用することで、市内のどこに住んでいても必要なサービスを受け、日常生活を維持できるという考え方も重要である。「生活維持」を示すのであれば、道路などの物理的なネットワークだけでなく、こうした情報通信基盤なども含めて表現してはどうか。 その上で、そもそも今回の基本構想の中に「土地利用構想」を位置付けているのは、どのような考え方によるものなのか伺いたい。
事務局	土地利用構想を基本構想に位置付けている理由は、大きく制度的な背景と、本市の地理的な特性の2点がある。 まず、制度的な背景として、国土利用計画法に基づく市町村国土利用計画については、国が示す策定要領において、基本構想に即して策定するという考え方が示されており、基本構想と土地利用に関する計画が制度的にも密接に関連してきた経緯がある。ただし、現在は、基本構想に土地利用構想を設けることが法的に義務付けられているものではない。 一方、本市は広大な市域に多くの集落が点在しているという地理的な特性がある。人口減少が進む中であっても市域全体の暮らしを維持していくためには、必要な都市機能や生活サービスをどのように確保し、それぞれの地域をどのようにつないでいくのかという、将来のまちの形を示すことが重要であると考えている。そのため、本市では土地利用構想を最上位計画である総合計画の基本構想に位置付けている。
会長	土地利用という視点だけに限定するのではなく、例えば、かつての光ファイバーや現在の5Gなど、デジタル技術も活用しながら、市内のどこに住んでいても暮らしを維持できるという考え方を示すことが重要だと思う。中心市街地だけ

発言者	議事内容
	が生き残るということではなく、周辺地域も含めて市域全体の暮らしを支えていくというメッセージが伝わるよう、表現を検討していただきたい。
委員	この資料の特に6ページ、7ページを見ていると、図の右側の写真部分にある「『つなぐ』が新たな価値を生み出す」という言葉は、むしろ前面に出した方がよいのではないかと感じた。「将来の土地利用の方向性」という表現よりも、「『つなぐ』が新たな価値を生み出す」という言葉を打ち出すことで、より強いメッセージになるのではないかと。また、現在は文章を示した後に地勢図を掲載する構成となっているが、地勢図を先に見せる構成としてもよいのではないと思う。 「つなぐ」という点では、交通軸によって地域を結ぶことだけでなく、中心拠点や地域拠点それぞれの機能を充実させることも重要である。各拠点が充実し、それらがつながることによって、人と人とのつながりや新たな交流が生まれるという将来の姿を示すことができるのではないかと。 さらに、「新たな価値を生み出す」という考え方については、土地利用という枠にとどまらず、通信網やデジタル技術の活用なども含めて捉えることで、より広がりのあるものになると思う。「つなぐ」ことによって新たな価値を生み出していくという考え方を、もう少し強いメッセージとして打ち出してもよいのではないかと。
会長	確かに国土利用計画法との関係はあるものの、地域の将来の姿を示すという観点では、道路などの物理的なインフラだけに限定して考える必要はないと思う。先ほど申し上げた光ファイバーや5Gなども含め、地域や人をつなぐ様々な基盤を幅広く捉えてよいのではないかと。現在は基本構想の内容を自由に設定できるのであるから、従来の土地利用構想の枠組みにとらわれず、村上市として必要と考えることを柔軟に盛り込んでいただきたい。
基本構想(案) 将来に備える重点視点	
会長	最後に、「5. 将来に備える重点視点」についてご意見をいただきたい。5つの基本目標に横断的に関わる4つの視点として、「人口減少への適応」「人づくり」「デジタル活用」「共創の連携」を掲げているが、この4つの重点視点について、委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたい。

発言者	議事内容
委員	「人口減少」のところでは、副題として「人口減少時代を乗り越える」とあり、重点視点も「人口減少への適応」となっている。こうした表現についてはよいと思うが、「人口減少を前提に」という言い方については、行政自らが使うべきではないのではないかと感じる。人口減少への対応は、行政として取り組むべき重要な課題であり、最初から人口減少を受け入れているような印象を与える表現は避けた方がよいと思う。 私自身、これまで子育て関係の様々な会議に参加してきたが、行政から「人口が減っていくのは仕方がない」という印象を受けるような議題の示し方がされ、市民委員から「将来の見通しが暗く感じられる」といった意見が出たこともあった。行政が発信する言葉は市民の受け止め方にも大きく影響するため、「人口減少を前提に」という表現については、もう少し前向きな姿勢が伝わるよう工夫していただきたい。
会長	例えば、「人口減少の中でも村上是持続していける」あるいは「人口減少に負けない」といった表現であれば、同じように人口減少という現実を踏まえながらも、より前向きな姿勢が伝わるのではないかとと思う。具体的な表現については事務局で検討していただきたいが、市民に対して前向きなメッセージとなるよう、言葉を工夫していただきたい。
委員	基本目標5に「多様性が広がるまち」とある。私はこれまで、男女共同参画や男女平等という視点から意見を申し上げることが多かったが、男女共同参画や男女平等は、特定の政策分野だけに関わるものではなく、あらゆる分野に横断的に関わる非常に重要な視点だと考えている。そう考えると、「将来に備える重点視点」と同様に、計画全体に横串を通す視点として位置付けることも考えられるのではないかと。この点について、村上市としてどのように考えているのか伺いたい。
事務局	男女共同参画の考え方を横断的な視点として位置付けることについては、これまで十分に検討できていなかった部分である。本日いただいたご意見を踏まえ、一旦事務局に持ち帰り、計画全体の中でどのように位置付けるか整理・検討させていただきたい。
会長	委員の役割は、様々な視点から検討の材料を提供することにある。本日いただいた意見も踏まえ、事務局において検討していただきたい。

発言者	議事内容
事務局	4 その他 [次回開催予定等について連絡]
事務局	5 閉会 [進行]